

ひょうごフィールドパビリオン SDGs 体験型地域プログラム認定委員会 議事概要

日 時：令和5年2月28日（火）10：00～11：30

場 所：2号館5階会議室

出席者 委員6名

〈主な発言〉

■SDGs 体験型地域プログラムの第一次認定について

委員等

- ・観光や学びに始終したプログラムが多いが、再訪や投資に繋がるような内容になれば、プログラムとしての深みが出る。その為、磨き上げでは、もう一歩先の話に繋げていけるものにする必要があるだろう。

委員等

- ・地元の人の取組をそのまま認めるだけでなく、その取組がどのような未来に繋がっていくのかが重要だ。朝来市では南アフリカから移住した2人の兄弟が地域の中で活躍しているが、なぜ日本に、なぜ朝来へ移住したのか等、意義が強くなる情報発信が必要である。他のプログラムも同様にそういった要素があるだろう。

知事

- ・最初の発表となり、重要なタイミング。その意味でも、社会課題が何か、そしてどのように解決しようとしているのかを明確に打ち出す必要があるだろう。

委員等

- ・事務局側で、提出の合ったプログラムの認定候補、認定見送り候補を整理しており、概ねこの点について異論は無いと思う。今後は、目指すべき形をしっかりと示して磨き上げていかなければならない。

委員等

- ・ボランティアガイドをどうするか等、来年度以降、ブラッシュアップする考え方や体制、内容も重要だ。

知事

- ・これからのプロセスが大切。一緒に作り上げていく形を示したい。

委員等

- ・基本的に伴走型でフォローしながら練り上げていくのがいい。

委員等

- ・今日の認定はこれでいいのではないだろうか。今後磨き上げで仕上げていく流れとしたい。

■『今後、より地域を豊かにする可能性』が高いと期待できるプログラム候補（基準に未達のもの）

委員等

- ・万博が世界へ向けた見本市と考えた場合、『今後、より地域を豊かにする可能性』が高いと期待できるプログラムは、新しくチャレンジしようとしている人たちにも光をあてていくとの考え方がいいのではないか。

委員等

- ・基準に対して少し懸念がある場合は、どのようにすればその懸念を払拭できるのか、具体策を応募者と共有する必要がある。

委員等

- ・課題を整理した上で、丁寧な対応が必要だ。

県

- ・応募者への磨き上げの提示は、ポジティブに示していきたいと思う。
- ・今回、認定の意志決定をしていただいた上で、委員の皆様の意見を踏まえながら先の道筋を示していきたい。

委員等

- ・一度認定すると、磨き上げに取り組みないところも出てくる。その為、各プログラムの課題を共有する視点が必要になる。

委員等

- ・いずれにせよ全ての応募者と磨き上げについてコミュニケーションを取る必要があるだろう。同じ分野のプログラム同士で内容を共有すれば、濃淡がわかりやすくなり、各々で磨き上げていくかもしれない。

委員等

- ・現状は、他者と比較できず、立ち位置が分からない状況であるため、他の取組が見える形で磨き上げていくのがよい。

県

- ・認定プログラムは公表するので、同類のプログラムがあるかどうかはわかると思う。

委員等

- ・ジャンルや地域毎にプレミア・プログラムがでてくれば、習おうという意識づけに繋がるのではないかな。

委員等

- ・ブラッシュアップのプロセスをどう伝えるのかが大事だ。

県

- ・テロワールと重複するところは、既にこれまでから磨き上げに取り組んでいるが、それ以外の取組、特に個人で、単体で行っている取組が課題になるかもしれない。

委員等

- ・外すという選択肢もあったが、それも認める方針になったので、実際にやってみただけで難しいとなれば、認定を取り消すことも含め、間口を広く取ったと理解している。

委員等

- ・単なる観光事業ではない。中山間地域が元気になるという変化を求めているのであって、地域に変化をもたらすアドバイスも必要になる。

委員等

- ・伴走型にもパターンがあるので、「自立自走型」、「対話協働型」等表現を工夫して欲しい。

委員等

- ・対話を受け入れないと認定を取り消す等条件つけることは必要だと思う。地域貢献につながるカテゴリや、自分たちができないと判断すれば取り下げるなど、わかりやすい選択肢を示すことが重要だ。

委員等

- ・2025年を経て「自立自走型」が増えることが理想だと思う。

委員等

- ・委員は、様々な取組を俯瞰的に見れる立場なので、ネットワークとして繋ぐ提言はできる。各プログラムを各々で磨いていただきながらも、我々が助言することもできるだろう。

委員等

- ・全員参加のプログラム。それぞれの持ち場で何かするなどあれば面白い。

委員等

- ・様々議論いただいた。それでは、118の応募プログラムのうち、事務局から提案があった113件を認定する了承でよいか

(異議なし)。

以 上